

# 大谷

HAKODATE OTANI



函館大谷学園報  
2020 October

vol.26



# 摂取不捨のこころ

学校法人 函館大谷学園 理事長 門 間 佳 一

本年度は、今まで経験のない生活環境の中で始まりました。誰もが想像もしていなかったパンデミックが、医療従事者の方々の努力と尽力を超えて、これまでの生活形態を大きく変え、失業者も増加するなど生活自体が脅かされている状態にあります。

学園行事としては、昨年度の卒業・卒園式の中止や縮小から始まり、入学・入園式も制限された形で行い、更には園児が楽しみにしていた運動会までもが影響を受けました。

この新型コロナウイルス全世界の感染者は、9月下旬で32,429,965名という大きな数字となりました。その間には、自粛警察・マスク警察・帰省警察と呼ばれる人々も現れ、脳科学者の中野信子先生からは「正義中毒」とさえ表現されました。他を思いやる姿は何処へ行ってしまったのでしょうか。病は体だけでなく人々の心も蝕んでおります。

日本赤十字社が4月に「ウイルスの次にやってくるもの」と題してウェブサイト動画を公開した後に、長野県と日本赤十字社長野県支部のコラボで「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう!～負のスパイラルを断ち切るために～」との題名で同じく動画の公開がありました。この6分30秒ほどの長さの動画は次のような内容でありました。

このウイルスには「3つの」「感染症」という顔があります。

第1の「感染症」は病気そのものです。

第2の「感染症」は不安と恐れです。

第3の「感染症」は嫌悪・偏見・差別です。

そこで解説されていたのは

1. 見えない敵(ウイルス)への不安。
2. 特定の対象が見える敵と見なして嫌悪の対象とする  
=敵がすり替わってしまう。
3. 嫌悪の対象を偏見・差別し遠ざけることで、つかの間の安心感が得られる。

見えないがゆえに不安が生じ、その不安が対象を可視できるものとすり替えて偏見差別を生み、自分がその対象となりたくないがゆえに体調不良も隠し、場合によっては感染を拡大していく。スパイラルとはこのような悪循環を示すものなのでしょう。そればかりか、人と人との繋がりや関わりも断ち切られるのです。

14年前に亡くなられた前大谷専修学院長の竹中智秀師は、人間の真の繋がりが成り立つ根拠を阿弥陀如来の摂取不捨の心として示され、「えらばず・きらわず・みすてず」と言い切れ、「くらべず・あせらず・あきらめず」とも表されました。その如来の心から、このコロナ禍で浮き彫りになってきた私どもは「えらび・きらい・みすてる」者であり、「くらべ・あせり・あきらめる」者であるのだと指摘されているのです。

今までの生活を社会を回復して行かねばなりません、言葉を換えれば「人間の本来性に帰る(真の人となる)」ことでありまして、それは如来の「えらばず・きらわず・みすてず」という心に包まれる者でなければなりません。

本学園の建学の精神である「人と生まれたい意義と生きる喜びを見いだそうとする意欲と自信」を共に育てていく歩みこそ、繋がりを築き苦境を乗り越えて、生活と社会を回復することに他ならないと思うのであります。



# 短期大学



## ひとと ずっと いきいきと



### 函館大谷短期大学紹介

2020年度、予期せぬ新型コロナウイルス感染症の猛威に文明のもつ、命の脆さ、危うさを痛感する昨今、短期大学においては、数多くの講義、実習の中止・変更が余儀なくされました。特に学生達が、楽しみにしていた行事の数々が軒並み中止となりました。こうした中でも、学生生活2年間の楽しい思い出を作りたいという思いから、去る

9月14日に本学学友会が中心となって、「学生交流会」が挙行されました。「新しい生活様式」が模索される中、感染症対策を万全に整えたうえで、「〇×クイズ・宝探しゲーム・ビンゴ大会・有志発表」が執り行われました。参加した学生・教職員も、東の間の新型コロナウイルスの喧騒から解き放たれ、楽しいひと時を過ごすことができました。

### 学生生活や行事のサポート、キャリア支援を行っております！



こども学科 渡谷 能孝先生

短大の講義では保育を学ぶ学生に、社会福祉や障がい者福祉などを教えております。また、学生支援部において、学生が充実した学生生活を送れるように各種研修会、課外活動、学生主催行事のサポート

はもちろん、キャリア支援や就職活動サポートなどを行っております。

講義や研究だけではなく、学生が社会に出るまでの短い期間で色々なことを身に付けることができるよう、一人ひとりの顔が見える本学だからこそできる、人間味あるかわりを大切にしております。

### 子どもの運動遊びについて研究しています！



こども学科 中川 希望先生

普段短大では、保育者を目指す学生に向けて、幼児体育や保育に必要な健康分野などを教えております。講義や演習では、子どもたちの身体や心の発達をより良い方向に導き成長を支えていくために必要な、発達を踏まえた指導や楽しく身体を動かし遊ぶポイントを多く伝えて

いけたらという思いで、実践を行っております。また、自身の研究では、子どもの運動遊びにおけるコミュニケーションの促進について研究を行っており、高度経済成長期以降、子どもたちを取り巻く環境の変化によって、コミュニケーション能力が低下していることが、子どもたちの生きづらさに繋がっていることから、運動遊びを通して楽しく遊ぶ中で、どの様にコミュニケーション能力が促進しているか、子ども同士の関りや保育者との関り、遊びの環境などについて研究を進めていきたいと思っています。

### 図書館は宝の山！



図書司書 香取 美佐子さん

インターネットの普及により、知りたいことは『検索』すれば容易に『答え』を見つけられるようになりました。便利なツールとして、私も大いに利用しています。しかし、本で『調べる』という過程を楽しむことも重要だと思っています。

もちろん、インターネットのように“ヒット”はしませんから、一筋縄ではいきません。たくさん並んだ本の中から選書し、さらに内容に目を通し『探し出す』。一見手間はかかりますが、その過程には様々な内容に触れることで得られる知識があります。本で調べることの醍醐味とでも言いたいでしょうか。

インターネット使用不可のレポートが課題に出されたらと、学生が図書館を右往左往する様子が時折見られます。図書館は宝の山です。どんどん利用し、たくさんの知識を吸収してほしいと思っています。

### 学生や教職員の力になれることに大変やりがいを感じております！



事務職員 佐藤 佑心さん

私は日頃、事務職員として学生たちに対する、諸手続きの窓口対応や奨学金の担当及び教職員に対する業務サポート等を行っております。

この業務を通じて学生たちの「自分達の夢に向かって、社会人のスタート地点に立つために一つ一つの手続きをしっかりと取り組む様子」や教職員の「学生一人一人に真剣に向き合う様子」がうかがえ、私としてもこんなに近くで、学生や教職員の力になれることに、大変やりがいを感じております。

これからも身近な存在として、私を含め、事務局をいつでも頼っていただければ嬉しいです。

# 高等学校



## THE DAY SURELY COMES ～その日はきっと来る～



### 校長だより

校長 丸山 政秀

今のこの状況をだれが想像できたでしょうか？

本校においても3月中旬から一度目の臨時休業、4月中旬から5月いっぱいまで2回目の臨時休業となりました。

学校に来られないこと、友達と会えないこと、思うように行動できないこと…辛い、苦しいなど様々な思いが交錯してきたこの半年だったと思います。

このような状況の中で、私たちは何を学ばなければならないのでしょうか？

「あの人はちゃんとしてなかったから感染した」、「あの政策は税金の無駄だ」などと何かを批判することにあふれ、冷静な見方ができないようになってきているように思います。

この誰も経験したことがない状況の中、本当に大切なことは誰かを、何かを批判することでしょうか？

釈尊誕生の伝説の中に、「誕生後すぐ歩いた」というものがあります。この伝説が示してくれているのは「六道を超えた」ということであり、この六道とは今を生きる私たちに当てはめると「私たち人間の生き方」だと言われています。

まさに今という状況に生きる私たちは六道そのものを歩んでいると言えるのではないのでしょうか。

今はこれまでにない苦しい時です。誰もが経験したことがない状況です。だからこそ皆で協力しながら生活することが大切であり、批判するより「自分がどう行動するか」ということのほうがずっと

意味があり、その行動が周りの人にも影響を与えていくものになるのではないのでしょうか。

こういった時代だからこそ「共に生きる」ということを忘れずに生活していきたいものです。



### 新任教員からの一言

教諭 3学年副担任 卓球部 高橋 雅人

私は現在、3学年の副担任と数学の授業を担当しています。函館大谷高校に4月に着任してから約半年が経ちました。今年は、新型コロナウイルスの流行による臨時休校や行事の中止や変更等で不規則な状態が続き、生徒と過ごすことができる時間が少なかったこともあり、ようやくペースを掴みはじめたところです。



最近では、授業や部活動等で、それぞれの目標に向かって日々努力している姿を見ると、10年前の高校3年生だった頃の自分自身を思い出します。私の理想は、生徒との信頼関係を築き、生徒の目標達成を支援し、生徒の成長を見届けることです。そのためにも、「常に学び続ける」ことを忘れない教師でありたいと思います。

### 保健室から

養護教諭 播磨 愛子

現在、社会や環境が変化し子供たちの健康的課題に対し養護教諭に求められるニーズは多様化しています。大谷高校の保健室では、主訴の他に日々の生徒との会話、表情、学校生活の様子とその背景に寄り添い、一人一人のいのちに対し真剣に向き合うことを心掛けています。それには、学校や保護者の理解、担任、教科、学年団、部活動、分掌の先生方の支えと協力があり成り立っていると感じています。

パンデミックとなった新型コロナウイルス感染症。長期に渡る臨時休業明け、生徒たちの様子が気がかりでしたが、クラスメイトや先生方に再会した喜び、限られた大会に向け部活動に取り組む姿、進路実現に向かって自分の可能性を拓こうと模索している姿、新しい仲間と環境の中で自分の存在と人間関係を築こうと試行錯誤している



姿を目の当たりにすると、しっかり前進していこうとする逞しさと頼もしさを感じました。新しい生活様式を求められ制限と不自由が多い中、力強い生徒たちの躍動に励まされます。

養護教諭であると共に一人の人間として謙虚さと感謝の心を持ち、これからも研鑽して参りたいと思います。

# 附属認定こども園



笑顔あふれる楽しい毎日!!  
みんないっしょにおおきくなろう!



## 畑ができました!!～おおきくなぁ～れ～



年長組でパプリカ・きゅうり・なすを育てました。苗をどうやって植えるの?と聞いていたところ、大谷高校の用務員さんがお手伝いに来てくれました。苗の根をほぐしてから植えることや肥料の量、水のあげ方などたくさん教えていただきました。

そして、一番大切なことは、「優しく声をかけてあげること」と聞き、「植物も生きているんだ」「みんなのことわかるんだ」と、毎日水をあげながら、大きくなってねと声をかけていました。太陽の光を浴びてすくすくと育っていく野菜を、真剣な表情で見つめる子どもたちは期待でいっぱいでした。

いよいよ収穫の日!目を輝かせながら優しく収穫し、新鮮な野菜を味わいました。漬け物や炒め物など、中には苦手な子もいましたが、みんなと食べることで、挑戦する姿も見られていました。他にも、とうもろこしやかぼちゃ、スイカなども植えました!大きく育ったスイカはみずみずしく、とても甘かったです。畑にはまだ葉っぱが…あとは秋にサツマイモを収穫する予定です!子どもたちにとっての楽しみはまだまだ続きます♪



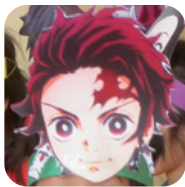
## みんなでお祭り♪

7月18日、“夏”を感じながら、友達と楽しい時間を過ごして欲しいという思いを込め、お母様方にも協力してもらい、年長組で夏の集いを行いました。

ヨーヨーや的あて、お菓子釣りやお面屋さんなど、まるで縁日のようなお店屋さんにも囲まれ、子どもたちは大興奮!自分のやりたい遊びへ一目散に向かう姿、友達と相談しながら遊ぶコーナーを考える姿などが見られていました。

アイス屋さんでは、シールやペンで自分なりに飾り付けをしてアイス作りを楽しみました。今人気の鬼滅の刃など、好きなキャラクターのお面をつけながら、ゲームを楽しみお祭り雰囲気を楽しみました。

また、2階に隠されたスタンプを探し、スタンプラリーを楽しみました。全部のスタンプと引き換えに、本物のアイスのご褒美をいただき大満足な子どもたちでした。



## 製作遊び、楽しいね☆

一番小さな0歳児クラスの子どもたちにとっては、製作活動全てが初めての経験です。

保育者に見守られながら、落ち着いた環境の中で「聞く」「見る」「触れる」など、様々な感覚の働きを豊かにします。絵の具やスタンプが手足につく不思議な感触に、小さいながらも驚きの表情や思わずこぼれる笑顔が見られ、私たち保育者も顔がほころんでしまいます。



1歳児になると、楽しさがわかり、自由に線を描いたりすることも楽しいと感じる時期と同時にいろいろな“形”に興味をもつようになります。「目」「鼻」「口」などの顔の作り

などもわかるようになり、“自分で考える力”を育てています。2歳児は、保育者の話を聞き、一緒に行くことで模倣することができるようになります。成長すると共に可能性がどんどん広がっていきますね!

季節ごとに子どもたちの可愛い製作が廊下に飾られ、こども園は賑やかで楽しい雰囲気に包まれていますよ。



# 松前認定こども園



## はじける笑顔 松前っ子!! みんなともだち。この指と〜まれ!!



### 青函トンネルってすごいね～

6月下旬。その日、園外保育を楽しみにしていた子どもたちでしたが、天候は、あいにくの雨。ですが、年長組だけ急遽、園バスに乗って福島町にある「青函トンネル記念館」へ出掛けました。

到着すると入口はなんと！トンネル型の屋根。青函トンネルができるまでの過程を大きなスクリーンで見たりと、子どもたちは興味津々！普段、目にしている大きなトンネルが、たくさんの人の手で、時間を掛けて作られたことを知り、とても驚いている様子でした。

その他にも、館内には子どもたちが楽しめるコーナーがたくさんあり、喜んで見学する様子が見られていました。

特に、子どもたちに人気だったのが「新幹線のぬりえコーナー」です！自分たちで描いたぬりえを機械にスキャンすると…映像上で子どもたちの描いた新幹線が走り出すという仕組みで、子どもたちは「ばくも！わたしも！」と期待を膨らませながら、順番を待つ姿が見られていました。

普段、味わえない雰囲気を楽しみながら、青函トンネルについて学ぶことができた一日でした。



### 新鮮な野菜がいっぱいだよ！

今年も、こども園の横にある畑で「トマト」「スナップえんどう」「きゅうり」「枝豆」などの野菜を育てました。植えたばかりの苗を見て、子どもたちも「これは何の野菜？」と聞いてくるなど興味を持ち、野菜の生長を楽しみにしている様子でした。天気の良い日には、じょうろを持って畑に出発！水をあげる時には「大きなあれ～」「おいしくなあれ～」と願いを込め、日に日に大きくなる野菜を見て喜んでいました。



収穫の時期になると、毎日の日課のように畑へ行き、たくさん採れた時は両手で持ち切れないくらいたくさん採れました。自分の手で生長した野菜を収穫するのが楽しいあまり、まだ熟していない野菜を採ってしまう事も…。

普段は苦手な野菜でも、こども園の畑で採れた野菜は特別に美味しいのか、たくさん頬張る子どもたち。自分の手で野菜を育て、収穫し、食する体験は、野菜に興味を持ち、食する楽しさを味わうことが出来る、子どもたちにとって一番の収穫になったことでしょう。



### 夏は、やっぱり水遊び！

照りつける日差しとセミたちの大きな鳴き声が響く8月。今年も蒸し暑い日が続き、子どもたちは夏の暑さやセミの声に負けないくらい元気に水遊びをして過ごしました。



準備をして園庭に出ると真っ先にプールやたらいの中へ！小さな手で水をすくったり、バケツに水を入れたり、胸あたりまで浸かったりと思い思いに遊び始めました。さらに、頭上からのシャワーやスプリンクラーの水を浴びれば、さらに大興奮！「キャー！」と嬉しそうに叫び、太陽より眩しい笑顔がたくさん輝いていました。

でも、中には水が苦手な子たちも…。苦手な子たちは無理にプールには入らず、足洗場で足首くらいまで水をかけながら、少しずつ水に慣れながら、楽しく遊んでいました。

夏が短い北海道と言われていますが、今年の夏は思い切り水遊びを楽しみ、快適に暑い夏の日々を満喫しました。



# 大野幼稚園



## 遊びが基本!! 自然あふれる幼稚園 心も身体ものびのびと…



### キャンプごっこ～楽しい思い出作り～

年長組は、例年お泊り保育をしておりましたが、新型コロナウイルス感染予防のため、今年度はキャンプごっこをすることになりました。「テントを作りたい!」「バーベキューしたい!」と話が盛り上がり、早速、グループでテント作りがスタート!時には壁が倒れてしまうこともありました、試行錯誤を繰り返しながら12個のテントが完成しました。

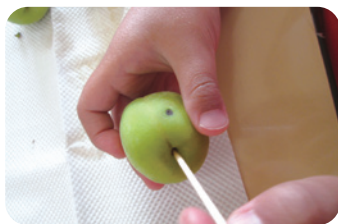
当日は、あいにくの天気だったため、遊戯室や玄関等、好きな場所でキャンプごっこがスタート!お昼は、楽しみにしていたバーベキュー!子どもたちが大好きなお肉や焼きそばがあり、大満足な様子でした。デザートのかき氷は、コーラ味が大人気でしたよ。午後からは八郎沼へ探検に行き、アメンボやセミなどを発見。たくさんの自然に触れることが出来ました。

幼稚園にお泊りはしませんが、友達と一緒にキャンプごっこを思いっきり楽しみ、年長組の思い出がまた一つ増えました。



### おいしい・たのしい・うめぼC~!

「あっ桃の匂いがする!」と青梅を手に取り、今年は、「梅仕事」に挑戦!梅シロップや梅干しを子どもたちと一緒に作りました♪最初は、「なりくち」という所を、爪楊枝を使って上手に取る所からスタートし、氷砂糖と交互に瓶に入れたり、赤紫蘇を塩で揉んで漬けこんだりしました。少しずつ溶け始めていく様子を毎朝友達と一緒に見たり、赤く染まる梅干しを覗いては、酸っぱそうな顔をしたりと、五感を使って堪能している子どもたち♪気温も上がり汗をいっぱいかいた日には、梅シロップを水で割って梅ジュースを飲んで水分補給したり、梅干しは2学期に入り、「土用干し」をしたりして、更に熟成中ですよ!幼稚園生活の中で直接体験する素晴らしさを子どもたちと一緒に共感しながら、すっぱ〜い梅干しを楽しみに暑い夏を乗り切り元気に過ごしています!



### おうまさん、こっちにおいで~!

毎日満3歳児組の保育室からは隣家で飼っている馬が見えます。子どもたちは毎日のように「先生!お馬さん見る!」と窓から眺めています。子どもたちは「何しているのかな?」「もぐもぐしているから、朝ご飯食べてるのかな?」など楽しそうに会話をしていました。いつか、近くで見ることができたらいいなと思い相談してみると、快く引き受けて下さり、早速歩いて会いに行きました。子どもたちはウキウキ、ワクワク!目がキラキラしていました!野原に着くと「来たよ~!お馬さん、こっちにおいで~!」と一生懸命呼びますが、待ちきれなく子どもたちから近づいていきました。実際に間近で見ると怖がる子もいましたが、中には「ごはんだよ!」と優しく辺りの草をあげたり、「可愛いね。」と手を差し伸べたりする子もいました。動物や生き物が大好きなのでこれからもかわりを大切にして優しい心を育てていきたいと思えます。



# 港認定こども園



## かわいい笑顔と笑い声 みんないっしょでたのしいね!



### みんなでひとつ!マーチング♪

開園時から取り組んできたマーチング。運動会のオープニングとしてもおなじみとなり、毎年お家の方や地域の方から楽しみにしてもらえるようになりました。今年度はコロナ禍の中で、例年のような活動を行えない状況でしたが、子どもたちは憧れのマーチングができる嬉しきで一生懸命練習していました。今年で最後となる5歳児は、鼓隊、カラーガード、ポンポンの全てのパートを練習してから担当を決めました。重たい楽器を装着して演奏する鼓隊、自分の身長よりも長いカラーガード、隣の子との距離が近いポンポンと、どのパートも左右やタイミングを間違えるとぶつかってしまうため、練習中はみんな真剣な表情でした。運動会は前日までの雨でグラウンドの状態が悪く、体育館での開催となりましたが、初めての場所でも落ち着いて演奏・演技をすることができました。

今年は3・4・5歳児のみの参加で、観覧者も少ない運動会でしたが、みんなで気持ちをひとつにして披露し、見ていた人達に感動を与えてくれました。力強い鼓隊の演奏と次々に技が繰り広げられるカラーガード、可愛いポンポンの演技に、会場いっぱいたくさんの拍手が鳴り響きました。



### おさんぽ大好き♪

お散歩が大好きな子どもたち。「お散歩に出かけるよ!」の一言で大盛り上がり!大きい組では子どもたち同士で手を繋いで歩きますが、小さい組では誘導ロープを握り歩くことも。小さな手でロープを掴み、小さな足で一生懸命前へ進みます。



園から一歩外に出るとそこは新しい世界かのように、子どもたちは様々なものを発見します。畑や道に咲いている草花を見つけると、思わず足が止まり、観察会が始まるなんてことも…。

今年度は新型コロナウイルスの影響もあり散歩の機会は減ってしまいましたが、これからまた、新たな発見をしてくれる子どもたちとお散歩が楽しみです。



### 未来のくるまがっこいい!

園内から見えたその車は、見慣れた車の形をしており、子どもたちの想像していた「未来のくるま」とは少し違っている様子でした。

体験会が始まり、さっそくとばかりに踊りだした車を見ると子どもたちの表情は一転し、食い入るようにその踊りに見入っていました。無人のままカーステレオから音楽が鳴り、ライトをピカピカさせ、ドアを開閉させながら踊る車に、拍手をして喜ぶ子どもたち。ファルコンウイングドアという羽のように開くドアが動く様子を見て、「飛ぶのかな?」などと友達同士話し合う姿も見られました。

子どもたちが大人になった未来には、今日体験したような「未来のくるま」が街中を走りまわっているのではうね。







## 広げよう学びの友を つなげよう未来の友に



### 同窓会の皆さま

函館大谷学園同窓会 会長 濱野 幸子

同窓生の皆さまにおかれましては、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

皆さまには平素から温かいご支援、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

同窓会は例年9月に開催され、総会・懇親会で同窓生の絆を深め、なごやかな一時を過ごし、学園の繁栄を願うと共に互いに友情を深めてきましたが、今年は、昨今のコロナウイルス禍の情勢を踏まえ、中止することになりました。年一回皆さまとお会いする機会を得られることが出来ず、大変残念でなりません。

先般、元同窓会長浜出カツノ様の同期メンバー（十七会昭和十七年卒業）からご連絡をいただきました。十七会は現在5名の同期生の方がご健在で卒業から現在まで七十数年間会を継続しておりましたが、高齢に伴いこの度解散することになりました。そのため、これまで蓄積してきた多額の運営費を同窓会にご寄付していただきました。先輩のご厚意に感謝申し上げ、大切に使用させていただきますことを皆さまにご報告させていただきます。

同窓会におきましては、令和元年における特別な事業はありませんでしたが、今後母校の発展に多少であれ充実した教育を目指す環境づくりに、先輩として協力するお力添えを宜しくお願い致します。

終わりに母校のさらなる発展と同窓生、学校関係各位の皆さまのご健勝をお祈り申し上げます。

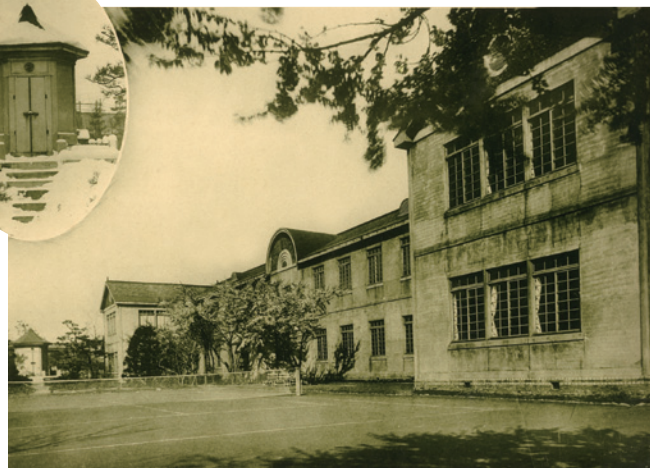
令和2年10月1日



第11代同窓会会長 浜出 カツノ（昭和17年卒）



平成12年同窓会



高女時代 大正12年～昭和22年校舎(千代台)

# 学 園 人 事

<p><b>【退 職】</b>                  令和2年3月31日付                  函館大谷短期大学                  教 授 乳井 英雄</p> <p>函館大谷高等学校                  教 諭 大塚 邦夫</p> <p>函館大谷短期大学附属認定こども園                  保育教諭 和賀 みさき                  保育教諭 西郡 佐智子</p>	<p><b>【採 用】</b>                  令和2年4月1日付                  函館大谷短期大学                  教 授 乳井 英雄</p> <p>函館大谷高等学校                  教 諭 高橋 雅人</p> <p>函館大谷短期大学附属認定こども園                  保育教諭 齊藤 巧紘                  保育教諭 室谷 奈積                  保育教諭 山本 桃果</p> <p>函館大谷短期大学附属松前認定こども園                  保育教諭 木下 七実                  保育教諭 堀川 莉乃</p>	<p>函館大谷短期大学附属大野幼稚園                  教 諭 安田 楓加                  教 諭 森重 菜月</p> <p>函館大谷短期大学附属港認定こども園                  保 育 士 小笠原 綾乃</p> <p>学園本部・附属港認定こども園                  事務職員 福田 理沙</p> <p><b>【昇 任】</b>                  函館大谷短期大学                  講 師 小山 貴博                  (短期大学助教)</p>	<p><b>【異 動】</b>                  函館大谷短期大学附属松前認定こども園                  保育教諭 坂口 莉子                  (港こども園保育士)</p> <p>函館大谷短期大学附属港認定こども園                  保 育 士 松岡 由真                  (松前こども園保育教諭)</p> <p><b>【退 職】</b>                  令和2年6月30日付                  函館大谷短期大学附属認定こども園                  保育教諭 上村 ちなみ</p> <p>令和2年9月5日付                  函館大谷短期大学附属認定こども園                  保育教諭 齊藤 巧紘                  ※( )内前職</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**訃 報** ご生前のご功労を偲び謹んで哀悼の意を表します。寺西 宣明 先生 令和2年6月逝去(享年93歳)

**財務情報の公開** 当学園の令和元年度財務情報については、公式ウェブサイトで開催しております。  
[http://www.hakodate-otani.jp/finance\\_2019.php](http://www.hakodate-otani.jp/finance_2019.php)

## 編 集 後 記

日々、私たちは「当たり前」の中で生活していますが、その当たり前としている一つ一つはすべて「有り難い」ものであることを忘れてはいけません。そしてそれは人とのつながりにおいても同様です。しかし、現実には善悪など様々なことを自分たちの都合で決め、思い通りにならないものを排除しようと常に争い続けているのが私たちの現実ではないでしょうか。

親鸞は関東にいる門弟に宛てた手紙『未燈鈔』の中で、「故法然聖人は、「浄土宗のひとは愚者になりて往生す」と候いしことを、たしかにうけたまわり候いし」と言っています。自分の欲望や都合、都合の悪い人に関しては排除しようとしてしまい、互いに傷つけあう私たちの姿。そのようにしか生きられない私たちの姿を「愚者」と表現しているのです。

今、私たちは直面したことのないような社会状況の中にいます。そんな今だからこそ、真正面から自分と向き合い、自身の愚かさを認めるところから他者を理解し、一人ひとりが互いに認め合えるようになっていきたいものです。

(高等学校 木戸口)

◎ご意見募集…みなさまのご意見、ご感想をお寄せくだされば、うれしく思います。

題 字 理事長 門間 佳一  
 発 行 学校法人 函館大谷学園  
 編 集 学園報編集委員会  
 〒041-0852 北海道函館市鍛冶一丁目2番3号  
 TEL 0138-51-5614 FAX 0138-52-6494  
 E-mail honbu@hakodate-otani.ac.jp

編集委員 樋口 也寸志 佐渡 敦美 小町 唯信 福田 理沙 小山 貴博  
 木戸口 靖之 柴田 朋恵 島田 夏実 工藤 千尋

表紙写真 平成23年から真宗大谷派函館別院にて行われている学園合同報恩講

<http://www.hakodate-otani.jp/>

